4 観光

観光の動向について、本道への来道客数をみると、平成26年の総数は約1,224万人で、前年比0.8％増と3年連続で前年を上回りました。

来道客数の推移(年計)

(万人)  (前年比、％)
平成17年 1,280 0.0
18年 1,302 1.7
19年 1,264 1.2
20年 1,286 3.1
21年 1,247 7.4
22年 1,154 0.5
23年 1,148 7.7
24年 1,060 10.0
25年 1,214 4.1
26年 1,224 0.8

本道に直接入国した外国人数は、平成26年は約84万人で、前年比32.8％増と3年連続で前年を上回りました。

来道客数の推移(輸送機関別)

(前年比、％)

輸送機関別では、平成26年は航空機が前年比1.6％増と前年を上回りましたが、JRは同5.5％減、フェリーは同3.3％減と前年を下回りました。
月別では、1月から5月までは前年を上回って推移していましたが、6月から10月にかけてはJRの脱線事故や大雨などの天候不順の影響などで前年を下回って推移し、11月、12月は3連休の増などから前年を上回って推移しました。

輸送機関別でみると、航空機は機材の小型化や減便などによる提供座席数の減少があったもののLCC（格安航空会社）の増便などもあり6月と8月を除いて前年を上回りました。JRは脱線事故や大雨などの天候不順などもありおおむね前年を下回りました。フェリーはおおむね前年を下回って推移しました。

輸送機関別でみると、航空機は機材の小型化や減便などによる提供座席数の減少があったもののLCC（格安航空会社）の増便などもあり6月と8月を除いて前年を上回りました。JRは脱線事故や大雨などの天候不順などもありおおむね前年を下回りました。フェリーはおおむね前年を下回って推移しました。
（注）
1. 社団法人北海道観光振興機構調べにより作成。
2. 来道客数は、各輸送機関における道内への下り便利用客数。
5 生産活動

(1) 鉱工業生産指数

生産活動の動向について、鉱工業生産指数（原指数）をみると、平成26年の年平均は97.8で、前年比3.1%の減少となり、全国は年平均98.9で、同2.0%の増加となりました。

業種別では、パルプ・紙・紙加工品工業、金属製品工業などが昨年に比べて上昇しましたが、食料品工業、鉄鋼業、電気機械工業、窯業・土石製品工業、輸送機械工業、石油・石炭製品工業などが低下しました。このうちパルプ・紙・紙加工品工業は2年連続で上昇となりました。
月別でみると、季節調整済指数は 1 月から 3 月までは 100 を上回りましたが、4 月以降は下回って推移しました。
原指数の前年同月比は、1 月、3 月はプラスで推移したものので、他の月はマイナスとなりました。
月別の動向を業種別でみると、食料品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、鉄鋼業はほぼ横ばいで推移しましたが、電気機械工業、石油石炭製品工業は4月以降低い水準で推移しました。また、建設需要が旺盛な窯業・土石製品工業ではセメントなどの生産が好調で一年を通して高い水準で推移しました。輸送機械工業は自動車駆動伝導装置の生産状況によって変動がありました。

[グラフ]

平成26年産業生産指数（季節調整済指数、業種別、月別）

食料品

パルプ・紙・紙加工

鉄鋼
電気機械
北海道
全国

金属製品
北海道
全国

窯業・土石
北海道
全国

輸送機械
北海道
全国

石油・石炭
北海道
全国

(注) 1 全国は、経済産業省「鉱工業生産動向」により作成。
2 北海道は、北海道経済産業局「北海道鉱工業生産動向」により作成。
（2）電力需要

電力需要についてみると、平成26年の需要電力は30,167百万kWhで前年比2.1％の減少となっており、このうち生産活動に関わりの大きい大口電力は4,853百万kWhで、前年比1.1％の減少となっています。

電力需要実績の推移（北海道、年計）

大口電力の推移（北海道、年計）
大口電力を業種別でみると、「食料品」が1,173百万kWhで前年比0.1%増、「鉄鋼」が679百万kWhで同6.1%減、「パルプ・紙」が525百万kWhで同7.7%増、「機械」が610百万kWhで同1.8%減となりました。

月別の大口電力をみると、2、3、10月は前年を上回りましたが、その他の月は前年を下回って推移しました。
月別の動向を業種別でみると、「食料品」と「機械」は年間を通しておおむね横ばいで推移し、「鉄鋼」は、2、3、4、10月は前年を上回り、その他の月は下回りました。「パルプ・紙」は、3月に前年を90.9%と大きく上回りました。

（注）電気事業連合会「電力需要実績」により作成。